3LJS

本科２期 10 月度

解答

Ｚ会東大進学教室

中３国語

17章

【添削課題】

出典…多田道太郎『ものまね――しぐさの日本文化――』／灘高校

解答

問1　A＝趣向　B＝懐　C＝博　D＝愉快　E＝警戒
F＝核心　G＝崇拝　H＝強烈　I＝表層

問2　独創性のない物真似と独自とは矛盾するものであるから。

問3　X　未　Y　既

問4　人の痛さを知れ

問5　目の不自由な妻の真似をすることで、深い愛に目覚める〔25字〕（26～27行目）

問6　独創性を競い、主張すべきだという考え方。〔20字〕

問7　何事においても、それが持つ意味は考慮されず、他と異なっているというだけで評価されてしまう点。

問8　西洋の近代にならって独創を尊ぶ風潮が表層にあるが、その底には真似や模倣を良しとする哲学が根深く生きのびていること。〔57字〕

理解を深める

明治維新以降、日本は西洋の文明を強烈な形で受け入れる一方で、それまでの伝統的な日本の文化や思想を維持し続けたから。〔57字〕

18章

【問題】（演習）

出典…『十訓抄』／04年　愛光高校

現代語訳

和邇部用光という音楽師がいた。土佐の国のある神社の船遊びにでかけて、都に帰ってくるときに、安芸の国の、何とかという港で海賊に襲われた。（用光は）弓矢の使い方も分からない男であったので、防ぎ戦う力もなく、「今は間違いなく殺されるだろう」と思って、ひちりきを取り出して、船の上に座り、「そこの者どもよ、今はあれこれ言ってもはじまらない、早く何でも取りなさい。ただし、長年の間心に懸けてきた『小調子』という曲を吹いてお聞かせ申し上げよう。こんなことがあった、と後の話の種にしなさい」と言うと、首領が大きな声で「お前たち、少し待ちなさい。あんなことを言っている（ので）聞いてやれ」と言うと、（海賊たちは）舟を押さえて、全員が静まったので、用光は、「これが最期だ」と思われたので、涙を流して、すばらしい音で吹き出し、心を澄ませて吹き続けた。

ちょうどよい時であったのか、その曲は波の上に響き渡り、あの長江に鳴り渡った琵琶の逸話と全く異なることがなかった。海賊たちは静まって、何も言わなかった。しみじみと聞いて（いるうちに）曲が終わり、先ほどと同じ声で、「あなたの舟にねらいをつけて漕ぎ寄せたけれども、その曲を聞いて涙がこぼれた。退去する」と言って漕ぎ去ってしまった。

荒々しい武士たちの心を慰めるのは、和歌に限らない。これら（の話）は、みな音楽が発する徳の力である。また、この話は鬼神の心に感じさせたわけではないが、命を救ったのは、おごそかな音楽の力によったので、この機会に記す。

解答

問1　A＝聞か　B＝待ち

問2　君が船～さりぬ（9～10行目）

問3　用光が海賊に襲われて殺されるかもしれない時に、ひちりきを吹いたこと。

問4　②＝(イ)　③＝(オ)

問5　(ア)

理解を深める

①　弓矢の使い方も分からない男であったので、防ぎ戦う力もなく、「今は間違いなく殺されるだろう」と思って

②　こんなことがあった、と後の話の種にしなさい

③　「あなたの舟にねらいをつけて漕ぎ寄せたけれども、その曲を聞いて涙がこぼれた。退去する」と言って漕ぎ去ってしまった

19章

【問題】（演習）

出典…『古今著聞集』／07年　獨協大（改題）

現代語訳

ある所に強盗が入った時に、弓を持った見張り役として法師を立たせていた。秋の末ごろのことだったが、門のそばにあった柿の木の下に、この法師は矢をつがえた弓を片手に持って立っていた。その上から、熟した柿が落ちたのだが、この弓を持った法師の頭の上に落ちて、（柿は）つぶれてばらばらに散らばってしまった。この柿（の汁）が冷たく（感じ）、その当たった所〔＝頭〕を手で触ってみると、何かは分からないがぬるぬるしていたので、「早くも射られ（血が流れ）てしまったなあ」と思い、怖じ気づいてしまった。（この法師は）そばにいた仲間に「すでに傷を負ってしまい、どうしても生き長らえそうには思えないから、この（私の）首を切れ」と言う。「どこ（を射られたのか）」と（その仲間が）尋ねると、（法師は）「頭を射られたのだ」と言う。手で探ると、何かは分からないが（確かに頭が）一面濡れていた。手に赤い物がついたので「本当に血が出ているなあ」と思い、「そう〔＝弓で頭を射られた〕かもしれないが、たいしたことはないだろう。引きずって連れて行こう」と言って、肩に掛けて行こうとすると、（法師は）「いやいや、どうしても生き長らえそうには思えない。ただ早く首を切ってくれ」と頻りに言ったので、（仲間の者は、法師の）言うとおりに首を打ち落とした。

そうしてその頭を包んで、大和国へ持っていき、この法師の家に投げ入れ、「（法師が）こうこう言っていた」と言って（法師の家族にその頭を）与えた。（法師の）妻子は泣き悲しんで（その頭を）見てみたのだが、（頭に）全く矢の跡はない。「体に矢傷を負ったのか」と（その仲間に）聞いたところ、「そう〔＝体に傷を負った〕ではない。この頭のことだけを（本人は）言っていた」といったので、ますます悲しみ悔やむけれど、どうしようもない。気が小さいというのは、始末の悪いものである。これくらいの心の持ちようで、これほどの行動〔＝自ら死を選んだこと〕をしてしまった愚かさは（言うまでもない）。

解答

問1　はや（副詞）／い（ヤ行上一段活用の動詞「射る」の未然形）／られ（受身の助動詞「らる」の連用形）／に（完了の助動詞「ぬ」の連用形）／けり（過去の助動詞「けり」終止形）

問2　さらに

問3　ゆれ

問4　A＝（かたへの）輩（4行目）　B＝妻（子）（10行目）

問5　1＝(ア)　2＝(ア)　4＝(イ)

問6　3＝法師は頭を射られたのであって、体に傷を負ったのではない。
5＝柿が落ちたのを弓で射られたと勘違いし、自ら死を選んでしまった臆病な法師の愚かさは言うまでもない。

20章

【問題】（演習）

出典…『十訓抄』／大阪経済大・03年　改題

現代語訳

成範卿が、ある事件があって〔＝平治の乱に連座して免官された〕、（都に）呼び戻されて、内裏に参上なさったときに、昔は女房の詰め所に立ち入ることが許された者が、今はそうでも無くなったので、女房が御簾の中から、昔を思い出して、

雲の上は……宮中は昔と変わらないけど、（あなたの身分は変わってしまいました。）昔見ていた御簾の中が、恋しいですか。

と詠みかけたので、返歌をしようとして、灯籠のすぐそばまで寄ったときに、小松大臣が参上なさったので、「急いで立ち退こう」と思って、灯籠の火の灯心をかき出すための棒で、（歌の）「や」の文字を消して、そばに「ぞ」の文字を書いて御簾の中に差し入れ、（宮中を）退出なさったのであった。

女房が取って見ると、（成範卿は）「ぞ」の文字一文字で返歌なさったのであった。（このようなことは）めったになく、すばらしいことであった。

解答

問1　過去の助動詞「き」の連体形

問2　(オ)

問3　(ウ)

問４「簾の中が懐かしいのではないですか」という疑問を表す意味から、「簾の中が懐かしくてたまりません」という強調を表す意味に変わった。

問５　成範卿（１行目）

問６　(ア)

理解を深める

①　成範卿が、ある事件があって〔＝平治の乱に連座して免官された〕、（都に）呼び戻されて、内裏に参上なさったときに

②　雲の上は……宮中は昔と変わらないけど、（あなたの身分は変わってしまいました。）昔見ていた御簾の中が、恋しいですか

3LJS
中３国語

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製